

## A C P 研修会(R5.1.18)グループワークまとめ

テーマ：「どうすれば利用者やその家族にA C Pを知ってもらえることができるか

～医療・介護の専門職として、A C Pを広めていくために明日からできることは～」

※グループメンバーの敬称は略させていただきます。

### ①◎福谷(CM) 土井(医師) 山田(訪問看護師) 小川(MSW)

- ・いきなり深刻な話をしても広がらない。孫の世代から言われたほうが、本人も答えやすいのではないだろうか。学校の授業で話をして、「家に帰って家族で話し合おう」という宿題を出す。
- ・訪問看護師より、本人、家族、医療者側の意見が対立することがあり、本人の意見を尊重したいという思いからジレンマが生まれる。CM、訪看が、本人・家族を交えて、少しずつ話をしていき、ズレを修正していく。
- ・ゲームや映画を利用したら、一般に広がりやすいのでは。
- ・「ACP」をもっと分かり易い言い方にする。
- ・多職種の連携が必要なので、医療・介護従事者がスキルアップする。勉強会や情報交換会など。

### ②◎和氣(CM) 迫田(医師) 永田(事務職) 安達(包括保健師)

- ・「ACP」の言葉自体が浸透していない。
- ・早いタイミングから身近なこととして、話ができる環境を作らなければいけない。まずは、身近なコミュニティである家族や親戚から。
- ・認定調査にそんな項目があればよい。
- ・以前流行ったエンディングノートは浸透していない。皆さんどこかで、自分の最期の時の希望などの話はできていると思うが、元気な時から話題作りをしていく必要がある。

### ③◎南(CM) 赤木(尿院看護師) 大島(教員) 清水(CM、グループホーム職員)

- ・よその市がやっているように、新見市も独自でノートを作って広めていく。通院している人が多いので、興味があると思うので、そのノートを使って広めていく。
- ・大学の先生より、若い人は実感できないので、授業では「突然事故に遭ったらどうしますか？」と問いかけて話をしている。
- ・iチャンネルを利用して、ACPを劇にして放映してはどうか。

### ④◎山崎(包括CM) 小林(病院PT) 山本(病院看護師) 須藤(訪問看護師) 池田(CM)

- ・若い時、元気な時に話をした方が良い。しんどい時はできない。
- ・もしバナカードなどを利用して、デイサービスのレクで話をしていってはどうだろうか。
- ・改まって話をするとできないので、普段の会話の中でしていく。
- ・多職種の中には、密に関わる職種もあれば、距離のある職種もあるので、情報共有が大事。

- ・家族が介護している中で、家族は本人の変化に気づきにくい。ACP の提案を誰がしていけばいいのだろうか。
- ・ACP が話題になる前の事例～本人の「自分は、最期はこういう風にしたい」という目標に向かって、それをかなえるために家族や支援者が動いた。本人が意思表示したことによって、自分のためにも家族のためにもなったという事例の紹介があって勉強になった。
- ・備北民報でシリーズ化して掲載してもらい、PRしていく。民報が一番、市民に見られているのでは。

#### ⑤◎足立(CM) 太田(医師) 川本(薬剤師) 小郷(訪問看護師) 杉(PT) 高田(OT) 吉田(PT)

- ・ACPについて理解できていなかったが、本日の講演で良く分かった。
- ・子どものうちからACPについての知識があればいいので、子どものうちに伝えられる環境を作る。そのためには、学校の教員、市役所の職員をはじめ、一般の職種の方にも気軽に参加できる雰囲気をつくる必要がある。
- ・子どもたちに楽しく知ってもらいたいので、ACPのカードゲームを作成してはどうか。誰が？→専門職で作る。

#### ⑥◎坂本(CM) 宮本(病院看護師) 前田(保健所保健師) 加藤(訪問介護員)

- ・ヘルパーは、訪問中ACPについて話したいと思っても、なかなかできない。病院では、シビアな話は辛い。かなりタイミングが大切と思う。
- ・「元気なうちから家族と話をしていく」～日本がそんな文化になればいい。
- ・病院の待合や新型コロナワクチンの集団接種会場へパンフレットを置き、持ち帰ってもらい、家族間で話し合ってもらおう機会としてもらう。
- ・デイサービスのレクを利用して話す。同じ年代同士なので、気軽に話し合えるし、通所から帰って家でも話ができる。
- ・「医療・介護れんらく帳」を利用して、聴いていく(P23～24に「医療の希望」として、延命治療などについて書き込むページがある)。
- ・愛育委員、民生委員の協力。
- ・介護保険申請時にパンフレットを渡す。このパンフレットは、新見市共通のものを作成する。
- ・私たち専門職が連携して、ACPを広めていくことが大切である。

#### ⑦◎富谷(CM) 遠藤(医師) 品川(病院看護師) 高田(病院看護師) 山根(生活相談員)

- ・皆さんに知ってもらうことが大切なので、繰り返し発信していく。1回だけでは駄目。
- ・2大メディア(iチャンネル、備北民報)の力を借りて、
 

❖CM、ミニドラマで繰り返し発信⇒講演会の開催、メディアで放送、記事にする

  - ❖を繰り返すことで、ACPについて話し合う機会が増え、「自分事」として考え、話をする雰囲気となるのではないだろうか。
- ・医療・介護従事者も、それぞれが関わる人に対して、話し合ったり、意見を聞いたりしていくことが大切。